

## 2018年度 大学自己点検・評価(経済学研究科)自己点検・評価総括用シート 1

## ＜経済学研究科の教育研究目標の進捗状況＞

教育研究目標(タイトル)		評価指標	評価尺度	進捗状況
目標1	規模に応じた教育、研究支援体制を再構築する。	カリキュラム改革の進捗度合い 国内外研究報告に対する資金助成制度の拡充度合い	A: カリキュラム改革、研究支援拡充の実行	2018年度目標値 <b>B</b>
			B: 改革、拡充案の作成と承認 C: WGの立ち上げ D: 現状維持	2018年度自己点検・評価後(2018年度帳票提出時点) <b>C</b>
目標2	国際的に活躍する専門知識を備えた職業人を養成するため、アカデミズムと実務の融合を目指す多様なコースメニューを用意する。	国連・外交コース修了者数と国際機関への就職内定者数	A: 1名以上の国際機関就職内定者	2018年度目標値 <b>C</b>
			B: 1名以上の国連・外交コース修了者 C: 1名以上の国連・外交コース履修者 D: コース未設定あるいは履修者なし	2018年度自己点検・評価後(2018年度帳票提出時点) <b>D</b>
目標3	対外的な研究成果の発信に努め、教育へのフィードバックを含め、研究成果を社会に還元し寄与していく研究科を目指す。	発信できる研究成果としてのディスカッションペーパー発行数と経済学セミナーの開催回数	A: 行動計画①②どちらもA	2018年度目標値 <b>B</b>
			B: 行動計画①②どちらもB C: 行動計画①②どちらもC D: それ以外	2018年度自己点検・評価後(2018年度帳票提出時点) <b>B</b>

<2016～2018年度の自己点検・評価の取組み総括>

**総括1 <3年間の取組みによって改善したこと、向上したこと>**

教育研究目標1の「規模に応じた教育、研究支援体制を再構築する」を実現するために、カリキュラム改革 WG を立ち上げ、履修者数や履修者の個々のニーズに応じた授業を提供できる体制に向けての具体案作りに着手した。また大学院生の学会発表を促進・支援するため、旅費や宿泊費加えて、学会参加費も補助する制度を整え、国内外研究報告に対する資金助成制度を拡充した。

教育研究目標3の「対外的な研究成果の発信に努め、教育へのフィードバックを含め、研究成果を社会に還元し寄与していく研究科を目指す」を実現するために毎月2回程度のセミナーを開催し、研究成果の発信をすることで、社会還元の度合いを改善することができた。

**評価専門委員・所見記入欄:**

■総括1について

- ・ 教育研究目標の中に、学生の(一人あたり・一年間あたりの)平均発表論文数や学会発表数といったような、学生の研究活動に関する指標が欲しいと思いました。(A)
- ・ 取組みは進捗しているので、それらの成果について、今後検証することが期待されます。(B)
- ・ 教育研究目標に向けた取組みや改善活動が確実に行われています。これらの成果を十分に出すための改善活動等が、引き続き進められることを期待しています。(C)
- ・ 引き続き目標の達成に向けての取組みを期待します。(D)
- ・ 目標1、目標3に関して、具体的な取組みが進められていることが伺えます。(F)
- ・ 教員も多忙のなか、月に2回のセミナーを開催することは、当研究科の社会的発信と社会的価値を高めることにつながっていると思います。(G)